

2016年度国外中国法律史 研究论著目录

(日) 吉永匡史 (韩) 金 珍
(法) 梅凌寒 (德) 施可婷

编辑部按：本刊自2017年起，每辑将刊载上一年度国外出版的有关中国法律史研究的论著目录。目录首先依序划分为通代、先秦、秦汉魏晋南北朝、隋唐五代、辽宋金元、明清、近代七个门类，每一门类之下再区分日文、韩文、英文、法文、德文等语种，每个语种之下又设置“专著”“论文”“书评”“学位论文”“期刊专号”等项。目录所载信息均由本刊所聘海外通讯联络员提供，每一位联络员负责搜集以任何语言在本国发表或以本国语言在任何国家与地区发表的相关论著，由本刊编辑部汇为一编。需要特别说明的是，因意外原因，本篇目录所收英文成果的信息仅由德、法两国联络员提供，无法完整反映英语学界的年度研究状况。此外，每位联络员对于“法律史”的内涵与外延的理解或有不同，因此不同语种项下所收成果的范围未尽一致，本刊秉持尊重各自学术传统的开放态度，不作统一要求。

一 通代(具有概论性质 跨域不同断代)

(一) 日文

【专著】

1. 石見清裕編著，『ノグド人墓誌研究』，汲古書院，2016年。
2. 岡田英弘，『世界的ユーラシア研究の六十年』，藤原書店，2016年。
3. 土肥義和編，『八世紀末期～十一世紀初期 敦煌氏族人名集成：索引篇』，汲古書院，2016年。

【论文】

1. 飯尾秀幸，「戦後日本における中国古代国家史研究をめぐる」，『専修史学』60，2016年。
2. 小口雅史，「在サンクトペテルブルク・ロシア科学アカデミー東洋写本研究所蔵世俗文書補訂：關尾史郎氏紹介の戸籍様文書・水利文書を中心に」，『法政史学』85，2016年。
3. 川本芳昭，「東アジア古代における『中華』と『周縁』についての試論」，『古代東ユーラシア研究センター年報』2，2016年。
4. 藤田勝久，「中国古代の情報技術と資料学」，『資料学の方法を語る』15，2016年。
5. 森部豊，「唐代奚・契丹史研究と石刻史料」，『関西大学東西学術研究所紀要』49，2016年。
6. 山内敏輝，「封建制国家と貴族制研究の新視角：封爵制と食封制をめぐる」，『東洋史苑』88，2016年。

【书评】

1. 小川快之，「三木聰著『伝統中国と福建社会』」，『中国研究月報』70-7，2016年。
2. 速水大，「土肥義和編『八世紀末期～十一世紀初期敦煌氏族人名集成：氏族人名篇 人名篇』，同編『八世紀末期～十一世紀初期敦煌氏族人名集成：索引篇』」，『唐代史研究』19，2016年。

(二) 韩文

【论文】

1. 소준섭 (苏俊燮), 《중국 법의 이해 - 이론과 실제 그리고 역사 (中国法理解——理论、实际与历史)》, 서해문집 (西海文集), 2016 年。
2. 송차오중 (宋朝忠), 《中国阴阳五行法律思想源流》, 《中國史研究》103, 2016 年。
3. 천위 (陈煜), 《从传统“内乱”涵义的变化看法律秩序观的演进》, 《中國史研究》102, 2016 年。

(三) 法文

【期刊专号】

1. Jérôme Bourgon (巩涛编), “Les lieux de la loi dans la Chine impériale” (《中华帝国法律的所在研究》), *Extrême-Orient, Extrême-Occident* 40 (2016), Presses Universitaires de Vincennes.

(四) 德文

【学位论文】

1. Peter Ertl, Rechtskultur und Rechtswirklichkeit im modernen China. Historische und kulturelle Grundlagen (现代中国的法律文化与法律现实: 历史及文化方面的基础), Dissertation, Friedrich-Schiller-Universität Jena (耶拿大学), 2015。

二 先秦

(一) 日文

【专著】

1. 佐藤信弥, 『周: 理想化された古代王朝』, 中公新書, 2016 年。

【论文】

1. 海老根量介, 「春秋中～後期の申の復国問題について」, 『史学雑誌』125-1, 2016年。
2. 岡本真則, 「出土資料より見た西周王朝と諸侯の関係」, 早稲田大学長江流域文化研究所編『中国古代史論集: 政治・民族・術数』, 雄山閣, 2016年。
3. 落合淳思, 「甲骨文字について」, 『歴史と地理』699, 2016年。
4. 末次信行, 「卜辞出現の歴史的経緯について」, 『千里金蘭大学紀要』13, 2016年。
5. 谷秀樹, 「西周代伯仲叔季孟考」, 『立命館文学』647, 2016年。
6. 平林美理, 「春秋時代の『烝』・『報』・『通』事例から見た諸侯の婚姻習慣の変化について」, 『早稲田大学大学院文学研究科紀要』61-4, 2016年。

【书评】

1. 齋藤道子, 「小林伸二著『春秋時代の軍事と外交』」, 『史学雑誌』125-6, 2016年。
2. 戸内俊介, 「高澤浩一編『近出殷周金文考釈』」, 『二松学舎大学人文論叢』96, 2016年。
3. 松井嘉徳, 「豊田久『周代史の研究: 東アジア世界における多様性の統合』(汲古叢書123)」, 『史学雑誌』125-9, 2016年。

(二) 英文

【专著】

1. Chang Wejen, *In Search of the Way: Legal Philosophy of the Classic Chinese Thinkers*, Edinburgh University Press, 2016.

三 秦汉魏晋南北朝

(一) 日文

【专著】

1. 佐川英治, 『中国古代都城の設計と思想: 円丘祭祀の歴史的展

開』，勉誠出版，2016 年。

2. 楯身智志，『前漢国家構造の研究』，早稲田大学出版部，2016 年。

3. 谷口建速，『長沙走馬楼呉簡の研究』，早稲田大学出版部，2016 年。

4. 富谷至，『漢唐法制史研究』，創文社，2016 年。

5. 福島大我，『秦漢時代における皇帝と社会』，専修大学出版局，2016 年。

6. 藤田勝久，『中国古代国家と情報伝達』，汲古書院，2016 年。

7. 村元健一，『漢魏晋南北朝時代の都城と陵墓の研究』，汲古書院，2016 年。

【論文】

1. 会田大輔，「北周天元皇帝考」，『東方学』131，2016 年。

2. 池田敦志，「前漢文帝期における顧租公鑄法に関する一考察」，早稲田大学長江流域文化研究所編『中国古代史論集：政治・民族・術数』，雄山閣，2016 年。

3. 石井仁，「魏晋南朝の従事中郎について」，『東北大学東洋史論集』12，2016 年。

4. 石井仁，「南朝国官考」，『駒沢史学』87，2016 年。

5. 石井仁，「漢魏における公府・幕府の発達」，三国志学会編『狩野直禎先生米寿記念 三国志論集』，汲古書院、2016 年。

6. 板橋暁子，「西晋愍帝政權再攷：長安からの『中興』と秩序形成」，『東方学』132，2016 年。

7. 井上了，「漢代における『士大夫』呼称の受容」，『中国研究集刊』62，2016 年。

8. 榎本あゆち，「南朝貴族と軍事：南齊の雍州刺史王奐を中心として」，『名古屋大学東洋史研究報告』40，2016 年。

9. 小野響，「前秦苻堅政權論序説」，『集刊東洋学』114，2016 年。

10. 何俊，「元帝期と王莽期における儒家思想と国家の改革」，『九州中国学会報』54，2016 年。

11. 柿沼陽平，「漢末群雄の經濟基盤と財政補填策」，『三国志研究』

11, 2016年。

12. 川合安, 「南朝の士庶区別」, 『東北大学東洋史論集』12, 2016年。

13. 川手翔生, 「南越の統治体制と漢代の珠崖郡放棄」, 『史観』174, 2016年。

14. 小林文治, 「里耶秦簡よりみた秦辺境における軍事組織の構造と運用」, 早稲田大学長江流域文化研究所編『中国古代史論集: 政治・民族・術数』, 雄山閣, 2016年。

15. 齋藤幸子, 「前漢の太子家官制と太子官属」, 『日本秦漢史研究』17, 2016年。

16 酒井駿多, 「後漢の羌支配体制の成立と崩壊: 護羌校尉を中心に」, 『紀尾井論叢』4, 2016年。

17. 佐々木仁志, 「漢初諸侯王国の軍制に関する一考察」『集刊東洋学』114, 2016年。

18. 佐々木仁志, 「高祖劉邦による異姓諸王封建をめぐる」, 『歴史』127, 2016年。

19. 椎名一雄, 「『嶽麓書院蔵秦簡(参)』 案例一にみる秦代文書行政と裁判」, 小此木輝之先生古稀記念論文集刊行会編『歴史と文化 小此木輝之先生古稀記念論文集』, 青史出版, 2016年。

20. 下倉渉, 「ある女性の告発をめぐる」, 『史林』99-1, 2016年。

21. 朱鳳瀚, 「關於中国簡牘的弁偽」, 『出土文献と秦楚文化』9, 2016年。

22. 陶安あんど, 「嶽麓秦簡司法文書集成『為獄等状等四種』 訳注稿一事三案」, 『法史学研究会会報』19, 2016年。

23. 菅沼愛語, 「北魏における『子貴母死』制度の歴史的背景: 皇太子生母殺害の慣習とその理由」, 『古代文化』68-3, 2016年。

24. 杉村伸二, 「漢代列侯の起源」, 『東洋史研究』75-1, 2016年。

25. 鷹取祐司, 「漢代における『守』と『行某事』」, 『日本秦漢史研究』17, 2016年。

26. 楯身智志, 「前漢における『諸侯』の復活: 復封・紹封の政治的背景」, 『中央大学アジア史研究』40, 2016年。

27. 谷口房男, 「秦漢時代の官印制度と民族官印の印紐について: 特に南蛮・西南夷の鈕型を中心として」, 高橋継男教授古稀記念東洋大学東洋史論集刊行会編 『高橋継男教授古稀記念東洋大学東洋史論集』, 汲古書院, 2016 年。

28. 玉野卓也, 「北魏における州刺史の出自についての一考察」, 高橋継男教授古稀記念東洋大学東洋史論集刊行会編 『高橋継男教授古稀記念東洋大学東洋史論集』, 汲古書院, 2016 年。

29. 西川利文, 「漢代の『史書』」, 『歴史学部論集』(佛教大学) 6, 2016 年。

30. 丹羽崇史, 「考古学研究から見た非発掘簡」, 『出土文献と秦楚文化』9, 2016 年。

31. 福井重雅, 「再考・荀子と法家思想」, 『東洋研究』201, 2016 年。

32. 堀内淳一, 「北魏孝文帝の『漢化政策』とその支持者について」, 『皇学館史学』31, 2016 年。

33. 松下憲一, 「北魏の後宮制度」, 『北大史学』56, 2016 年。

34. 水間大輔, 「秦漢『県官』考」, 早稲田大学長江流域文化研究所編 『中国古代史論集: 政治・民族・術数』, 雄山閣, 2016 年。

35. 宮宅潔, 「秦代遷陵縣志初稿: 里耶秦簡より見た秦の占領支配と駐屯軍」, 『東洋史研究』75-1, 2016 年。

36. 森和, 「告地書と葬送習俗」, 早稲田大学長江流域文化研究所編 『中国古代史論集: 政治・民族・術数』, 雄山閣, 2016 年。

37. 横山裕, 「憤歎からみた法家思想の展開について: 『韓非子』孤憤篇と『潜夫論』潜歎篇を中心にして」, 『九州中国学会報』54, 2016 年。

38. 渡邊将智, 「後漢安帝の親政とその統治の構造」, 早稲田大学長江流域文化研究所編 『中国古代史論集: 政治・民族・術数』, 雄山閣, 2016 年。

【书评】

1. 小林聡, 「川合安著『南朝貴族制研究』」, 『唐代史研究』19, 2016 年。

2. 陶安あんど, 「高村武幸著『秦漢簡牘史料研究』(汲古叢書128)」, 『史学雑誌』125-11, 2016年。

3. 高村武幸, 「簡牘整理小組編『居延漢簡(卷)』」, 『明大アジア史論集』20, 2016年。

4. 水間大輔, 「若江賢三著『秦漢律と文帝の刑法改革の研究』(汲古叢書118)」, 『史学雑誌』125-8, 2016年。

(二) 韩文

【论文】

1. 김경호(金慶浩), 《秦漢法律簡牘의內容과 그 성격——『嶽麓書院藏秦簡』(參)·(肆)의 내용 분석을 겸하여(秦漢法律簡牘的內容與性質——兼論《嶽麓書院藏秦簡(參)·(肆)》的內容)》, 《中國古中世史研究》42, 2016年。

2. 김동오(金垆吾), 《秦帝國 縣의徒隸운용——『里耶秦簡』作徒簿를 중심으로(秦代縣的徒隸運用及其特點——以《里耶秦簡》“作徒簿”爲中心的探討)》, 《中國古中世史研究》40, 2016年。

3. 무부파(武夫波), 《春秋決獄新探: 一種法哲學視角的解讀》, 《中國學報》78, 2016年。

4. 임병덕(林炳德), 《秦에서漢으로의罰金刑과贖刑의變化와 그性格(從秦到漢罰金刑和贖刑的變化及其性格)》, 《東洋史學研究》134, 2016年。

5. 임병덕(林炳德), 《『嶽麓秦簡』과中國古代法制史의諸問題(《嶽麓秦簡》與中國古代法制史的諸問題)》, 《法史學研究》54, 2016年。

6. 임병덕(林炳德), 《진대의 벌금형과 속형(秦代的罰金刑與贖刑)》, 《中國史研究》100, 2016年。

7. 임중혁(任仲嬾), 《秦漢시기詔書의律令化(秦漢時期詔書的律令化)》, 《中國古中世史研究》42, 2016年。

8. 최재영(崔宰榮), 《張家山漢簡〈二年律令〉置後律의 구성과 내용—置後律 註解를 중심으로(張家山漢簡〈二年律令·置後律〉的構成與內容—置後律註解)》, 《中國古中世史研究》41, 2016年。

(三) 英文

【专著】

1. Ulrich Lau , Thies Staaek , *Legal Practice in the Formative Stages of the Chinese Empire: An Annotated Translation of the Exemplary Qin Criminal Cases from the Yuelu Academy Collection* , Brill , 2016.

四 隋唐五代

(一) 日文

【专著】

1. 礪波護, 『隋唐佛教文物史論考』, 法蔵館, 2016 年。
2. 礪波護, 『隋唐都城財政史論考』, 法蔵館, 2016 年。
3. 吉永匡史, 『律令国家の軍事構造』, 同成社, 2016 年。

【论文】

1. 荒川正晴, 「中国律令制下の交通制度と道路」, 館野和己・出田和久編 『日本古代の交通・交流・情報 1 制度と実態』, 吉川弘文館, 2016 年。
2. 石野智大, 「『通典』郷官条の唐代村落制度記事について: 法制史料との関わりを中心に」, 『法史学研究会会報』19, 2016 年。
3. 海野洋平, 「九世紀末葉敦煌諸郷『納草曆』の復原: 学郎課本三卷 (P. 4019・P. 3349・P. 3368) の一体的架蔵の証跡たる piece (付屬細片) をめぐって」, 『東洋学報』98-2, 2016 年。
4. 栄新江 (西村陽子翻訳), 「『補史』から『再構築』へ」, 『敦煌写本研究年報』10-2, 2016 年。
5. 榎本淳一, 「『唐六典』編纂の一断面」, 小此木輝之先生古稀記念論文集刊行会編 『歴史と文化 小此木輝之先生古稀記念論文集』, 青史出版, 2016 年。
6. 岡野誠, 「唐代の平闕式についての一考察 (下): 敦煌写本「唐

天宝職官表」の検討を通して」、『法律論叢』89-1, 2016年。

7. 小野木聰, 「唐後半期の地方監察: 出使郎官・御史と巡院, 憲衛保持者」, 『東洋史研究』75-2, 2016年。

8. 川村康, 「『唐律疏議』捕亡律現代語訳稿(上)」, 『法と政治』67-2, 2016年。

9. 小林栄輝, 「安史の乱勃発直後から代宗期の江南統治政策: とくに浙西を中心に」, 高橋継男教授古稀記念東洋大学東洋史論集刊行会編『高橋継男教授古稀記念東洋大学東洋史論集』, 汲古書院, 2016年。

10. 轟順新(吉田愛翻訳), 「中唐長安における国忌行香制度の復原」, 『学習院大学国際研究教育機構研究年報』2, 2016年。

11. 高瀬奈津子, 「唐代の墓誌」, 『歴史と地理』696, 2016年。

12. 趙晶(佐々木満美・矢越葉子翻訳), 「唐令復原再考: 「令式の弁別」を手掛かりとして」, 高瀬奈津子編『東アジアの礼・儀式と支配構造』, 吉川弘文館, 2016年。

13. 鳥居一康, 「唐代都督軍管区制と貞観「十道」制: 唐宋時代の軍制と行政(I)」, 『唐宋変革研究通説』7, 2016年。

14. 速水大, 「P. 3899v 馬社文書に関する諸問題」, 『敦煌写本研究年報』10-2, 2016年。

15. 丸橋充拓, 「唐代後半の北辺経済再考」, 『アジア史学論集』10, 2016年。

16. 孟憲実(王鼎翻訳), 「名岸戦役より西州府兵を覗く」, 荒川正晴・柴田幹夫編『シルクロードと近代日本の邂逅: 西域古代資料と日本近代仏教』, 勉誠出版, 2016年。

17. 矢越葉子, 「天一閣蔵明鈔本天聖令の書誌学的検討: 唐令復原の一方法として」, 『お茶の水女子大学人文科学研究』12, 2016年。

18. 山崎覚士, 「加耗・省耗・雀鼠耗: 両税法の附加税」, 『唐宋変革研究通説』7, 2016年。

19. 李方, 「唐代水利法律與西域水利法律條文的運用」, 『敦煌写本研究年報』10-2, 2016年。

20. 劉安志(楽洵翻訳), 「吐魯番出土唐代解文についての雑考」,

荒川正晴・柴田幹夫編 『シルクロードと近代日本の邂逅：西域古代資料と日本近代仏教』，勉誠出版，2016 年。

21. 渡辺信一郎，「唐代兩税法の成立：兩税錢を中心に」，『唐宋变革研究通訊』7，2016 年。

22. 辻正博，「唐代寫本における避諱と則天文字の使用：P. 5523 rectoの書寫年代について」，『敦煌寫本研究年報』10，2016 年。

【书评】

1. 会田大輔，「大淵貴之著『唐代勅撰類書初探』」，『唐代史研究』19，2016 年。

2. 岡部毅史，「速水大著『唐代勳官制度の研究』」，『唐代史研究』19，2016 年。

3. 小島浩之，「速水大著『唐代勳官制度の研究』」，『史学雑誌』125-10，2016 年。

4. 坂上康俊，「岡野誠著『唐玄宗期の県令誠励二碑と公文書書式について』（『明大アジア史論集』18）」，『法制史研究』65，2016 年。

（二）韩文

【论文】

1. 풍립군（冯立君），《唐朝陇右监牧设置考——以〈天圣令·医疾令〉唐 15 条“其陇右监牧”句为中心》，《中國學報》75，2016 年。

五 辽宋金元

（一）日文

【专著】

1. 高井康典行，『渤海と藩鎮』，汲古書院，2016 年。

2. 張東翼，『モンゴル帝国期の北東アジア』，汲古書院，2016 年。

【论文】

1. 大西啓司，「『天盛旧改新定禁令』に見られる『一族の父』」，『東

洋史苑』88, 2016年。

2. 大室智人, 「北宋における三人結隊法について」, 高橋継男教授古稀記念東洋大学東洋史論集刊行会編『高橋継男教授古稀記念東洋大学東洋史論集』, 汲古書院, 2016年。

3. 川村康, 「宋代比附筭記」, 『宋代史から考える』編集委員会編『宋代史から考える』, 汲古書院, 2016年。

4. 金成奎 (洪性珉翻訳), 「誓書: 10~13世紀東アジアの安全保障策」, 『史滴』37, 2016年。

5. 金成奎 (洪性珉翻訳), 「宋代東アジア帝王生日小考」, 『宋代史から考える』編集委員会編『宋代史から考える』, 汲古書院, 2016年。

6. 小島浩之, 「南宋告身二種管見」, 漢字文献情報処理研究会編著『論集: 中国学と情報化』, 好文出版, 2016年。

7. 齋藤忠和, 「北宋時代の兵器管理について: 『守城祿』が記す北宋南宋交替期の状況を手がかりとして」, 日本比較文化学会関東支部編『交錯する比較文化学』, 開文社出版, 2016年。

8. 高井康典行, 「士と吏の間: 五代・遼・金の中央吏職」, 『宋代史から考える』編集委員会編『宋代史から考える』, 汲古書院, 2016年。

9. 高橋弘臣, 「南宋臨安への上供米制度の成立」, 『愛媛大学法文学部論集』(人文学科40), 2016年。

10. 中島楽章, 「南宋衆分資産考」, 『宋代史から考える』編集委員会編『宋代史から考える』, 汲古書院, 2016年。

11. 毛利英介, 「『関南誓書』初探」, 『関西大学東西学術研究所紀要』49, 2016年。

12. 毛利英介, 「大定和議期における金・南宋間の国書について」, 『東洋史研究』75-3, 2016年。

13. 與座良一, 「宋代の保甲法と都保制に関する一試論」, 『歴史学部論集』(佛教大学)6, 2016年。

【书评】

1. 大島立子, 「青木敦著『宋代民事法の世界』(慶應義塾大学出版会, 2014年)」, 『法制史研究』65, 2016年。

2. 小川快之, 「青木敦『宋代民事法の世界』, 『歴史学研究』952, 2016年。

3. 寺田浩明, 「山本英史編『中国近世の規範と秩序』(研文出版, 2014年)」, 『法制史研究』65, 2016年。

4. 平田茂樹, 「青木敦『宋代民事法の世界』, 『史学雑誌』125-7, 2016年。

(二) 韩文

【论文】

1. 김준현 (金俊贤), 《〈至正條格〉鹽法연구 (〈至正条格〉盐研究)》, 《法史學研究》54, 2016年。

2. 장징카이 (张京凯), 《宋代户绝田法制问题研究的回顾与展望》, 《中國史研究》100, 2016年。

3. 최해별 (崔碧茹), 《南宋시기 ‘檢驗’ 官員이 알아야 할 구급의학 처방 - 『洗冤集錄』 「救死方」을 중심으로 (宋代 “检验” 官须知的 “救死” 知识: 以 〈洗冤集录〉 卷五 〈救死方〉 为中心)》, 《東洋史學研究》134, 2016年。

4. 판핑 (潘萍), 《宋代 “违制” 初探》, 《中國史研究》104, 2016年。

六 明清

(一) 日文

【专著】

1. 磯部淳史, 『清初皇帝政治の研究』, 風間書房, 2016年。

2. 加藤直人, 『清代文書資料の研究』, 汲古書院、2016年。

3. 川越泰博, 『永樂政權成立史の研究』, 汲古書院, 2016年。

4. 庄声, 『帝国を創った言語政策』, 京都大学学术出版会, 2016年。

5. 荷見守義, 『永樂帝』, 山川出版社, 2016年。

【论文】

1. 赤城美恵子, 「清朝前期における熟審について」, 『帝京法学』30-1, 2016年。
2. 荒武達朗, 「嘉慶年間中国本土の郷村役: 南満洲地域との比較」, 『徳島大学総合科学部人間社会文化研究』24, 2016年。
3. アラムス・馬麗・野波寛, 「清代における帰化城トゥメト旗の行政機構について」, 『関西学院大学社会学部紀要』124, 2016年。
4. 岩田啓介, 「雍正年間における清朝の青海モンゴル支配の実態: 統属関係への介入と盟旗制の運用を中心として」, 『東洋学報』98-1, 2016年。
5. 上田裕之, 「清代雍正年間における銅禁政策と京局辦銅」, 『史学』85-4, 2016年。
6. 上田裕之, 「清代雍正年間における銅禁政策と各省の対応」, 『社会文化史学』59, 2016年。
7. 上田裕之, 「清代雍正初頭における西北・西南諸省の開鑄論議」, 『歴史人類』44, 2016年。
8. 王長青, 「清代初期のモンゴル法のあり方とその適用: バーリン旗の事例を手がかりに」, 『言語・地域文化研究』22, 2016年。
9. 大川沙織, 「明代市舶太監の創設とその変遷: 嘉靖期の裁革と税監の設置をめぐって」, 『史窓』73, 2016年。
10. 大野晃嗣, 「明代の会試執事官体制の変遷について: 外簾四所の人事とその変革を中心に」, 『東北大学東洋史論集』12, 2016年。
11. 神谷秀二, 「清初における品級・昇転の変化」, 『早稲田大学大学院文学研究科紀要』61-4, 2016年。
12. 川越泰博, 「土木の変と地方軍: 班軍番上の視点から」, 『中央大学文学部紀要』史学61, 2016年。
13. 黒田有誌, 「一八世紀後半チベットの裁判における清朝の関与について: 人命案件に関する満文檔案から」, 『東洋史苑』88, 2016年。
14. 五味知子, 「清代における殺人事件の裁判と女性: 楊乃武案を手掛かりに」, 『歴史学研究』946, 2016年。

15. 坂口舞, 「題補制と外補制: 清代雍正期における地方官の任用改革」, 『洛北史学』18, 2016 年。

16. 貞本安彦, 「明初における行人司の創設」, 『立正史学』120, 2016 年。

17. 佐藤淳平, 「20 世紀初頭清朝における財政集権化」, 『中国研究月報』70-6, 2016 年。

18. 時堅, 「明末の財政管理について: 戸部清吏司の職掌を中心として」, 『集刊東洋学』114, 2016 年。

19. 謝祺, 「清代咸豊以前の滇黔辺岸における川塩の運銷制度について」, 『名古屋大学東洋史研究報告』40, 2016 年。

20. 銭晟, 「明末「牙税」考: その性質と財政上の役割を中心に」, 『集刊東洋学』115, 2016 年。

21. 谷井陽子, 「清朝と「中央ユーラシア的」国家: 杉山清彦著『大清帝国の形成と八旗制』に寄せて」, 『新しい歴史学のために』289, 2016 年。

22. 谷口規矩雄, 「乾隆朝末期の胥吏の不法行為について」, 『愛大史学 (日本史学・世界史学・地理学)』25, 2016 年。

23. 土居智典, 「光緒新政時期の清朝中央による地方統治と省財政機関の再編についての一考察」, 『九州大学東洋史論集』44, 2016 年。

24. 豊岡康史, 「嘉慶維新 (一七九九年) の再検討」, 『信大史学』40, 2016 年。

25. 中村正人, 「清代初期過失殺補論」, 『金沢法学』58-2, 2016 年。

26. 荷見守義, 「明代都司掌印官の基礎的考察: 遼東都司の場合」, 『人文研紀要』(中央大学) 85, 2016 年。

27. 堀地明, 「嘉慶六 (一八〇一) 年北京の水害と嘉慶帝の救荒政策」, 村上衛編『近現代中国における社会経済制度の再編』, 京都大学人文科学研究所, 2016 年。

28. 望月直人, 「崗銀の没落: 清末, 雲南辺境における土司通行税の変容」, 『東洋文化研究』18, 2016 年。

29. 渡昌弘, 「明代国子監入学者の一検討」, 『東北大学東洋史論集』

12, 2016年。

【书评】

1. 岡洋樹, 「谷井陽子著『八旗制度の研究』」, 『東洋史研究』74-4, 2016年。

2. 喜多三佳, 「赤城美恵子著『清代における秋審判断の構造: 犯罪評価体系の再構成』(『法制史研究』63)」, 『法制史研究』65, 2016年。

3. 木村拓, 「荷見守義著『明代遼東と朝鮮』」, 『東洋史研究』74-4, 2016年。

4. 久保茉莉子, 「太田出『中国近世の罪と罰: 犯罪・警察・監獄の社会史』」, 『史学研究』292, 2016年。

5. 鈴木秀光, 「佐藤淳平著『宣統年間の預算編成と各省の財政負担』(『史学雑誌』123-2), 同『袁世凱政權期の預算編成と各省の財政負担』(『東洋学報』96-2)」, 『法制史研究』65, 2016年。

6. 中村正人, 「鈴木秀光著『清代嘉慶・道光期における盗案の裁判』(『専修法学論集』121)」, 『法制史研究』65, 2016年。

(二) 韩文

【论文】

1. 김경록 (金暻绿), 《明初 洪武帝의 國家統治구상과 『大明律』(明初洪武帝的国家统治计划与〈大明律〉)》, 《法史學研究》53, 2016年。

2. 김한밖 (Kim, Hanbark), 《18세기 清朝의 軍流犯 관리와 新疆으로의 發遣(十八世纪清朝的军流犯管理与发遣至新疆)》, 《明清史研究》45, 2016年。

3. 마홍웨이 (马洪伟), 《从存留养亲制度看清代司法中的情理表达》, 《中國史研究》102, 2016年。

4. 박소현 (朴昭贤), 《동아시아 범죄소설의 사회사(东亚犯罪小说的社会史)》, 《明清史研究》46, 2016年。

5. 배항섭 (裒亢燮), 《'근세' 동아시아의 정치문화와 직소(“近世”东亚的政治文化与直诉)》, 《역사비평(歷史批評)》117, 2016年。

6. 쑤빈 (孙斌), 《阐发律意: 从〈驳案汇编〉看清代刑部的法律解释》, 《中國史研究》104, 2016年。

7. 손수 (孙旭), 《明代官、民对司法官职业素质的不同理解: 以官箴书、小说对司法官人际交往能力的表现为中心》, 《中國史研究》102, 2016 年。

8. 심희기 (沈羲基), 《律解辯疑·律學解頤·大明律講解의 상호관계에 관한 실증적 연구 (关于《律解辯疑》、《律学解頤》、《大明律讲解》相互关系的实证研究)》, 《法史學研究》53, 2016 年。

9. 이선애 (李善爱), 《청대 몽골법 제정과 적용 양상 - 건륭 연간 재판사례 분석을 중심으로 (清代对蒙古的立法与其运用情况 —— 以乾隆年间的审判案例分析为中心)》, 《明清史研究》46, 2016 年。

10. 장경준 (张景俊), 《조선에서 간행된 대명률 ‘향본(鄉本)’에 대하여 (有关朝鲜王朝刊行的大明律“乡本”)》, 《法史學研究》53, 2016 年。

11. 조지만 (赵志晚), 《〈大明律〉與同罪에 관한 연구 (关于〈大明律〉与同罪的研究)》, 《明清史研究》46, 2016 年。

12. 조지만 (赵志晚), 《〈大明律〉상 범죄와 형벌의 비례 (〈大明律〉中犯罪与刑罚的比例)》, 《法史學研究》53, 2016 年。

13. 조지만 (赵志晚), 김영석 (Kim, Young-Suck), 《〈大明律〉상 皆에 관한 연구 (有关〈大明律〉中“皆”的研究)》, 《法學論攷》54, 2016 年。

14. 홍성화 (洪成和), 《清末 官箴書속에서의 재판행정과 지역사회 (清末官箴书中的审判行政与地域社会)》, 《明清史研究》46, 2016 年。

15. 홍성화 (洪成和), 《청대 법제사 연구를 위한 몇 가지 개념 이해 (对清代法制史研究中几个概念的理解)》, 《역사와 세계 (历史与世界)》50, 2016 年。

(三) 英文

【论文】

1. Pierre-Étienne Will (魏丕信), “The 1744 annual audits of magistrate activity and their fate”, in Juan Carlos Garavaglia, Christian Lamouroux and Michael J. Braddick eds., *Serve the Power (s), Serve the State: America and Eurasia*, Cambridge Scholars Publishing, 2016, pp. 317 – 368.

2. Jérôme Bourgon (巩涛), Pierre-Emmanuel Roux (胡白石), “The Chosŏn (朝鮮) Law Codes in an East Asian Perspective”, Marie Kim Seong-

Hak (金成鹤编), *The Spirit of Korean Law Korean Legal History in Context*, Brill, 2016 pp. 19 – 51.

3. Frédéric Constant (梅凌寒), “Circulation of Law and Jurisprudence in Korea and China : Homicide and the Notion of Requit for Life”, in Marie Kim, *The Spirit of Korean Law: Korean Legal History in Context*, Brill, 2016, pp. 52 – 82.

(四) 法文

【论文】

1. Zhang Ning (张宁), 《Entre “loi des Miao” et loi sur les Miao : Le cas du trafic d’ êtres humains dans le Guizhou au 18ème siècle》(清代苗疆控制中的苗例研究：以整饬跨省人口交易为例), *Extrême Orient-Extrême Occident*, 40 (2016), pp. 79 – 106.

2. Jérôme Bourgon (巩涛), 《Des châtements bien tempérés. La devise shenxing 慎刑 dans les manuels pour fonctionnaires》(温和的刑罚：官箴里的慎刑座右铭), *Études chinoises* 35 – 1 (2016), pp. 41 – 72.

3. Frédéric Constant (梅凌寒), 《Le territoire comme espace pénal : la peine d’ exil sous les Qing》(清代流放地与法律空间), *Extrême Orient-Extrême Occident*, 40 (2016), pp. 13 – 38.

4. Frédéric Constant (梅凌寒), 《L’ interprétation du droit par le juge en Chine》(中国法官的法律解释方法), *Pravnik* 133 (2016), pp. 263 – 273.

5. Xie Xin-zhe (谢新哲), 《Lieux de la loi, lieux du savoir : maîtriser le temps et l’ espace des autopsies sous les Qing》(法律之所在、知识之所在：清代验尸活动中的时间与空间管理), *Extrême Orient-Extrême Occident*, 40 (2016), pp. 13 – 38.

七 近现代(1840 ~ 1949)

(一) 日文

【专著】

1. 陳來幸, 『近代中国の總商会制度』, 京都大学学术出版会, 2016年。

【论文】

1. 荻惠里子, 「北洋大臣の設立: 1860 年代の総理衙門と地方大官」, 村上衛編『近現代中国における社会経済制度の再編』, 京都大学人文科学研究所, 2016 年。
2. 小野美里, 「アジア太平洋戦争期華北占領地における顧問制度の変容: 日本人教員の動向を中心に」, 『日本植民地研究』28, 2016 年。
3. 何志輝, 「認識, 接納与引進: 欧陸法制対晚清政府法律改革的影響 (1906 ~ 1911)」, 『東アジア文化交渉研究』9, 2016 年。
4. 何娟娟, 「清末広東省における日本製紙幣の導入」, 『東アジア文化交渉研究』9, 2016 年。
5. 何娟娟, 「清末湖南省における日本製紙幣の導入」, 『文化交渉』6, 2016 年。
6. 久保茉莉子, 「1930 年代前半の中国における検察制度」, 『歴史学研究』944, 2016 年。
7. 小西豊治, 「清末・民国初期憲法: 「明治憲法」の受容」, 『アジア文化研究』23, 2016 年。
8. □文嫻, 「20 世紀初頭の中国通貨システムの変容: 銀元鑄造および銀元流通の検討を中心に」, 『社会経済史学』81 - 4, 2016 年。
9. 世良正浩, 「中華民国北京政府後期における教育立法の研究」, 『人間の発達と教育』12, 2016 年。
10. 千葉正史, 「中華民国元年 5 月における川漢鐵路公司株主会の国有化決議: 保路運動後の四川鉄道国有化問題に関する新史料の紹介と分析」, 『東洋大学文学部紀要 (史学科)』41, 2016 年。
11. 中西竜也, 「近代中国ムスリムのイスラーム法解釈: 非ムスリムとの共生をめぐる」, 『東洋史研究』74 - 4, 2016 年。
12. 西英昭, 「大正期日本における中華民国法学の展開について」, 『法政研究』82 - 4, 2016 年。
13. 西英昭, 「北洋政府期法典編纂機関の変遷について: 法典編纂会・法律編査会・修訂法律館」, 『法政研究』83 - 3, 2016 年。
14. 本野英一, 「辛亥革命前夜上海周辺地域の通貨信用制度、1900 -

12」，斯波義信編『近代アジアとモリソンコレクション』，東洋文庫、2016年。

15. 山田勝芳，「滿洲国統治機構・官僚制度と執政府の形成」，『東北大学東洋史論集』12，2016年。

16. 吉澤誠一郎，「中華民國顧問グッドナウによる国制の模索」，斯波義信編『近代アジアとモリソンコレクション』，東洋文庫、2016年。

【书评】

1. 加藤雄三，「郭まいか著『民国期の上海会審公廨における手続と慣例について：民事訴訟事件を例に』（『東洋史研究』73-2）」，『法制史研究』65，2016年。

2. 高見澤磨，「高橋和之編『日中における西欧立憲主義の継受と変容』（岩波書店，2014年）」，『法制史研究』65，2016年。

3. 森田成満，「夏井春喜著『中華民國期江南地主制研究』（汲古書院、2014年）」，『法制史研究』65，2016年。

4. 松田恵美子，「西田真之著『近代中国における妾の法的諸問題をめぐる考察』（『東洋文化研究所紀要』166）」，『法制史研究』65，2016年。

5. 山村睦夫，「藤田拓之著『居留民の上海：共同租界行政をめぐる日英の協力と対立』」，『歴史と経済』232，2016年。

（二）韩文

【论文】

1. 김택경 (金泽璟)，《清末 奉天 警察權의二元分立 - 警察權을 둘러싼 淸日의 교섭과 대립 (清末奉天警察权的二元分立 - 淸日围绕警察权的交涉与对立)》, 《中國近現代史研究》71, 2016年。

（三）英文

【论文】

1. Jérôme Bourgon (巩涛)，“Death penalty and prison life in Late Qing Beijing. Some reflections in comparative historiography, methods and resources”, Luca Gabbiani (陆康编)，*Urban Life in China, 15th - 20th centuries. Communities* ,

Institutions , Representations , École Française d' Etrême Orient , pp. 202 – 226.

2. Luca Gabbiani (陆康) , “The ‘Municipal Turn’ in Xinzheng China : Revolution or Continuity? The Evidence from Beijing” , Luca Gabbiani (陆康编) , *Urban Life in China , 15th – 20th centuries. Communities , Institutions , Representations , École Française d' Etrême Orient* , pp. 229 – 248.

3. Yin Zhiguang , “Heavenly Principles? The Translation of International Law in 19th Century China and the Constitution of Universality” , *European Journal of International Law* , Vol. 27 , No. 4 , 2016 , pp. 1005 – 1023.

(四) 德文

【论文】

1. Wu Congzhou , “Historische Entwicklung und aktueller Stand der Zivilrechtsmethodik in Taiwan” (台湾民法方法的历史发展与当前状态) , Bu Yuanshi (ed.) , *Juristische Methodenlehre in China und Ostasien* (中国与东亚的法律方法论) , Mohr Siebeck , 2016 , pp. 311 – 324.